吉野歴史資料館だより

たぎつみやどころ

第２号
（通算第５号）

夕日が沈みゆく吉野川（上市から川下を望む）

【特別寄稿】南北朝時代前夜、日本では、吉野では何が起こったのか―亀田俊和氏「護良親王と吉野」

【編集】吉野歴史資料館　【発行・お問い合わせ先】吉野町教育委員会事務局　【発行日】平成 29 年 7 月 1 日

吉野歴史資料館　奈良県吉野郡吉野町宮滝 348　※吉野歴史資料館は３～11 月の土日祝開館。平日のご利用は教育委員会事務局まで要予約。
HP：http://www.town.yoshino.nara.jp/about/shisetsu/dentou/rekishishiryokan.html
吉野町教育委員会事務局　奈良県吉野郡吉野町上市 133　☎:0746-32-0190　fax:0746-32-5689　mail:syakai_e@town.yoshino.lg.jp

第２号の事。最近の宮滝の事。

「宮滝は今どうなっているの？」「吉野歴史資料館って何やってるの？」をお伝えすべく、創刊した『たぎつみやどころ』。吉野歴史資料館は宮滝以外のことも色々とやっているので、今号の見開きでは吉野山のことを取り上げてみました。

最近は、中世の本が比較的多く刊行されていて、中世ブーム？といった感があります。『応仁の乱』（中公新書）はベストセラーになっているとか。そんなわけ…でもないのですが、今号の特別寄稿は南北朝時代についてです。お楽しみください。

もちろん、宮滝でも色々とやっています。昨年度は発掘調査を行い、奈良時代の様相について、色々と分かってきました。この成果はもう少し整理して、近いうちにご報告したいと思っています。

モミのつぶやき

Ribbitter

バックナンバーのこと

いつも『モミの突撃！宮滝新聞』と、『たぎつみやどころ』を見てくれてありがとう！おかげで、第2号（通算第5号）を刊行することができたよ♪

こうして号数が増えてくると、気になってくるのがバックナンバーの事。

「途中から読み始めたから、○号を持っていないんだけど…」（Aさん談）

「あっれ～？昔、確かに○号もらったはずなのに、どこにやったかなぁ…？」（Bさん談）

そんな悩み、でてきますよね？（ね？）

フフフ、みなさまご安心ください。じつは、吉野歴史資料館のホームページで、『たぎつみやどころ』のバックナンバーの公開がはじまったんです！（ドンドンパフパフ♪）今は準備第3号まで公開中。新しい号が出る度に、バックナンバーも更新していくよ。たまにはホームページもチェックだね！

平成 29 年度春夏季　吉野歴史資料館イベントのおしらせ・報告

※各イベントは、開始２時間前に何らかの気象警報が吉野町にだされていた場合、中止します。

歴史講演会

●平成二九年七月一六日（日）
「大海人皇子の目指した世界」
講師：松井 一晃 氏
（橿原市教育委員会事務局文化財課統括調整員）

●平成二九年七月三〇日（日）
「四日市市久留部官衙遺跡と壬申の乱・聖武天皇の東国行幸」
講師：清水 正宏 氏
（四日市市教育委員会社会教育課主幹）

●平成二九年八月二〇日（日）
「宮滝遺跡の宮滝式土器」
講師：奥田 尚 氏
（奈良県立橿原考古学研究所特別指導研究員）

時間：一四時～一五時三〇分
場所：吉野町中央公民館　定員：八〇名
費用：五〇〇円　要申し込み

現地学習会

●平成二九年　六月二四日（土）　終了
「文楽若手会 寿桂立万歳・菅原伝授手習鑑 **観劇」**
【主な行先】文楽劇場
集合：吉野歴史資料館前　九時
吉野町中央公民館前　九時一五分
参加費：五〇〇円（観劇料・燃料代別）
解散時間：一七時予定　定員：二〇名

三重県五 熊野古道センター連携講座

●平成二九年六月二五日（日）　終了
「峰入 ―大峯入峰修行の世界―」
話者：池田 淳（吉野町教育委員会事務局）
時間：一三時三〇分～一五時
場所：熊野古道センター映像ホール
定員：八〇名　費用：無料

近鉄文化サロン連携講座

●平成二九年五月二〇日（土）　終了
「映像でみる吉野の民俗 奇祭 蛙飛び ―修験の験力―」
話者：池田 淳（吉野町教育委員会事務局）

●平成二九年七月一五日（土）
「映像でみる吉野の民俗 峰入 ―吉野大峯の修行の世界―」
話者：池田 淳（吉野町教育委員会事務局）
ゲスト：五條 永教 師（金峯山寺執行長）

●平成二九年九月一六日（土）
「吉野の黎明を探る -縄文時代の宮滝を中心に-」
話者：中東 洋行（吉野町教育委員会事務局）
時間：一〇時三〇分～一二時
場所：and 近鉄文化サロン阿倍野
（大阪市阿部野区阿部野筋 2-1-40）
費用：会員の方　一、一八八円
一般の方　一、六二〇円

お知らせ
①今年度より、公開講演会、歴史を学ぶ歴史講座、ヒストリートークを統合して、〝歴史講演会〟とさせていただく運びとなりました。パワーアップした歴史講演会を、どうぞよろしくお願いします。
②今年度春季～夏季では、上野誠の吉野万葉塾の開催はございません。ご了承ください。

【各講座等にご参加いただくには…】
歴史講演会・現地学習会へのご参加には、資料等準備のため、申込み制とさせていただいております。電話、ＦＡＸ、はがきのいずれかで、吉野町教育委員会事務局までお名前・ご住所・電話番号・参加希望講座等をお知らせください。
連携講座へのご参加には、各連携先へのお申し込みが必要となります。次のお問い合わせ先をご利用ください。

【各お問い合わせ先は…】
吉野町教育委員会　〇七四六-三二-〇一九〇
※ＦＡＸ、はがきの送付先は巻頭をご覧ください。
熊野古道センター　〇五九七-二五-二六六六
近鉄文化サロン　〇六-六六二五-一七七一

【特別寄稿】

護良親王と吉野

京都大学文学部非常勤講師　亀田俊和

◇

南北朝時代の吉野と言えば、建武三年（一三三六）一二月に後醍醐天皇が行宮を設置し、南朝の本拠地としたことが有名である。しかしながら、なぜ後醍醐は吉野を選んだのであろうか。さまざまな理由を想定できるが、自分の皇子である大塔宮護良親王が約四年前に行った「実験」も大きかったと筆者は考えている。

今年四月、筆者は戎光祥出版から『征夷大将軍・護良親王』を刊行した。その名のとおり、護良の伝記である。この中で吉野は、護良が鎌倉幕府との戦争で本拠に定めた場所として登場する。

◇

京都からわずかな従者たちとともに苦難の逃避行を続け、吉野にたどりついた護良が挙兵したのは、元弘二年（一三三二）一一月のことである。

翌元弘三年（一三三三）二月一六日、政所執事二階堂貞藤を総大将とする鎌倉幕府軍六万騎あまりが、吉野を包囲した。幕府軍は一八日から攻撃を開始したが、天然の要塞である吉野の守りは非常に堅く、攻略は難航した。

そこで幕府軍は、城の背後の金峯山に着目した。地形に詳しい兵士たちが夜中に金峯山に忍び入り、夜明けとともに鬨の声を揚げ、同時に大軍が攻め込んだ。

護良は死を覚悟し、蔵王堂の前の広場で最後の酒宴を始めた。だが村上義光の進言に従い、義光が自身が護良であると偽って名乗り、壮絶に切腹する間に高野山を目指して逃走した。また義光の子義隆も落ち延びる護良軍の殿を務め、存分に戦った後に切腹した。元弘三年閏二月一日の出来事である。

吉野は落城したが、その後も護良は畿内各地に潜伏してゲリラ戦を継続した。千早城で幕府の大軍を翻弄し続ける楠木正成とともに、その奮戦はやがて足利尊氏の裏切りを誘発した。そして吉野陥落からわずか四ヶ月後の元弘三年五月、鎌倉幕府滅亡が成就するのである。

約半月とは言え護良が幕府軍の猛攻撃を防いだことを、父帝後醍醐は記憶にとどめていたらしい。後醍醐も後年吉野に本拠を定め、足利氏の武家政権室町幕府に対抗する。賀名生などに行宮が移転した時期もあるが、大枠では吉野はよく持ちこたえ、約六〇年にわたって南朝は存続するのである。護良の先見の明が光っている。

◇

ところで、村上義光―義隆父子はなぜ護良親王に従ったのであろうか。近年の研究では、村上氏は信濃国に本拠を持つ鎌倉幕府御家人で、御内人と言われる北条得宗家の被官（家来）も兼ねていたことが解明されている。

村上氏だけではなく、護良とともに戦った楠木氏や赤松氏も、幕府御家人かつ御内人であったとする説が近年有力である。すなわち、れっきとした幕府御家人で、しかも幕府内で絶対的な権力を奮う得宗家に従い、その恩恵を受けていた武士がかなりの規模で倒幕に参加したことがわかってきたのである。

にもかかわらず、彼らが幕府を裏切って後醍醐や護良に味方した理由は何であろうか。かつての通説では、彼らは悪党とよばれる反体制の新興武士であり、そのため幕府の守旧的な政治に反発したためであると理解されていた。定説ではうまく説明できていた現象が、研究の進展によってかえって謎と化したのである。

正直に言って、筆者にはこの理由はよくわからない。足利尊氏のように形勢がだいぶ傾いてから幕府を裏切ったのならばともかく、村上氏たちは当初から、絶対無敵と思われるほど勢力が強大であった鎌倉幕府に敢えて立ち向かったのである。

一つ確実に言えるのは、ある程度の勢力基盤がなければ、そもそも倒幕運動などは行えないことである。そうした勢力を培ったのが鎌倉幕府であり、そういう意味では幕府は自分に敗北したのである。

【著者紹介】亀田俊和（かめだとしたか）

南北朝時代の室町幕府の政治史・制度史の研究者。京都大学博士（文学）。現在、京都大学文学部非常勤講師。

『南朝の真実』（吉川弘文館・二〇一四）、『高師直』（吉川弘文館・二〇一五）、『高一族と南北朝内乱』（戎光祥出版・二〇一六）『征夷大将軍・護良親王』（戎光祥出版・二〇一七）など、南北朝時代に関する著書多数。二〇一五年には、吉野町で講演を行っていただいている。

◆関連年表（編集者作成）

	元号	できごと
鎌倉時代	正応元	・尊治親王（後の後醍醐天皇）誕生。
	延慶元	・尊治親王の子、護良親王誕生。
	文保二	・後醍醐天皇即位。
	元弘元（1331）	・後醍醐天皇らの倒幕計画発覚。後醍醐天皇ら、笠置山で幕府に抗戦（元弘の変）。
		・楠木正成、河内で挙兵。
	元弘二	・後醍醐天皇ら敗北。幕府、光厳天皇をたてる。後醍醐天皇、隠岐へ流罪。
	元弘三（1333）	・護良親王、吉野山で挙兵。
		・幕府軍、吉野山を攻略。護良親王は落ちのび、以降ゲリラ戦を展開。
		・後醍醐天皇、隠岐を脱出し、挙兵。
		・足利高氏の寝返り、新田義貞の挙兵などにより、鎌倉幕府滅びる。
		・後醍醐天皇、光厳天皇を廃し、政務にあたる（建武の新政）。足利高氏は後醍醐天皇から尊の字を賜り、以後、足利尊氏と名乗る。
南北朝時代	建武二（1335）	・北条時行らの反乱（中先代の乱）。足利尊氏により討伐される。この後、尊氏は帰京命令を無視する。
		・後醍醐天皇、尊氏討伐を命じる。
	延元元（1336）	・尊氏、軍を率いて入京。しかし、後醍醐天皇らに敗れ、九州へ逃れる。
		・尊氏、光厳天皇の院宣を得て再度入京。途中、湊川で楠木正成を破る。
		・尊氏、室町幕府を樹立する。
		・後醍醐天皇、吉野山へ逃れ、南朝を開く。